

魚切ダム貯水池水質改善計画

令和7年3月改正

魚切ダム貯水池水質保全対策協議会

魚切ダム貯水池水質改善計画

第1 目的

魚切ダム貯水池水質改善計画(以下「改善計画」という)は、魚切ダム貯水池における栄養塩類等汚濁負荷量(以下「汚濁負荷量」という)の流入量を削減すること等により、魚切ダムの富栄養化を防止するとともに、異臭味の原因となる藻類の発生を抑制することを目的とする。

第2 目標

魚切ダム貯水池へ流入するリン負荷量を削減することを目標とする。

	白川地点 T-P 年平均値 [mg/L]	目標年度
短期目標	0.024 以下	令和 10 年度
長期目標	0.022 以下	令和 15 年度

第3 施策

魚切ダムに流入する汚濁負荷量を削減し、魚切ダムの富栄養化を防止するとともに、藻類等による異臭味の発生を抑制するため、以下の施策を推進する。

1 発生源対策

魚切ダムの水質を改善するためには、削減することが困難な自然的汚濁負荷量が多いことから、人の活動に起因する汚濁負荷量を極力削減することが必要である。

このため、発生源対策として以下の施策を推進する。

(1) 事業系排水対策

魚切ダム流域には食品製造業、木材・木製品製造業などが立地しており、その事業活動に伴い汚濁負荷が発生している。

このため、次の施策を推進する。

ア 事業場からの排水に対する指導の継続

イ 広島県小規模事業場排水浄化対策推進要領等に基づく小規模事業場への指導強化

(2) 生活系排水対策

魚切ダム流域における居住人口は約 5,000 人であり、その生活に伴い汚濁負荷が発生している。

この汚濁負荷量を削減するため、次の施策を推進する。

ア 公共下水道・農業集落排水への接続推進

イ 単独浄化槽から合併処理浄化槽への転換の推進

ウ 目の細かい水切りネットを使用するなどの生活排水対策の実践及びその定着

(3) 農地系排水対策

魚切ダム流域における水田・畑地等の農地は流域面積の3 %に相当する約 125 ha であり、農地への施肥等に伴い、汚濁負荷が発生している。

この汚濁負荷量を削減するため、次の施策を推進する。

ア 適正施肥の指導強化

イ 水田における側条施肥田植機利用等による肥効向上の推進

ウ 広島県環境保全型農業推進方針に基づく環境保全型農業の推進

(4) 畜産系排水対策

魚切ダム流域においては、牛約495頭、豚約 260 頭が飼育されており、その畜産経営に伴い汚濁負荷が発生している。

これらの汚濁負荷量を削減するため、次の施策を推進する。

ア 堆肥舎等家畜排せつ物処理施設の管理基準の遵守及び指導

イ 畜舎内ふん尿等の適正管理及び指導

ウ 良質堆肥の生産と適正流通促進

2 魚切ダム湖内対策

異臭味の原因は、藍藻類や放線菌から產生される。

異臭味の発生を防止するためには、これらの発生を抑制することが必要である。このため、次の施策を推進する。

(1) 曝気循環装置等、既設水質保全施設の効果的な運用

3 調査・研究

魚切ダム流域における各種発生源からの汚濁負荷量をより効果的に削減していくため、削減技術やその効果及びアオコ発生要因の解明などの調査研究が今後とも必要である。

このため、次の施策を推進する。

(1) 魚切ダム及び流域の水質の監視・調査

(2) 汚濁負荷量削減技術及び効果についての調査・研究

(3) アオコ発生予測手法の調査・研究

4 啓発活動

住民、事業者及び観光客に対し、広報誌、ちらし等を用いて、魚切ダムの水質状況及び改善計画の趣旨等について広報活動を行い、水質保全に関する知識の普及並びに意識の向上を図る。

5 その他

魚切ダム流域における事業系、農地系、畜産系の排水対策が円滑に実施されるためには、その費用に対する公的な助成等が必要である。

また、生活系排水対策のうち、合併処理浄化槽の設置を推進するためには、個人負担を軽減することが必要である。

このため、農業近代化資金制度、合併処理浄化槽設置費補助制度等を活用し、排水対策の円滑な推進を図る。

第4 推進対策

改善計画の施策の調整及び推進に関する事項等について協議するため、魚切ダム貯水池水質保全対策協議会を開催する。